

印刷業界の新技术情報を三美印刷がお届けするメールニュース

sanbi-i-com 2010年12月号(No.123)

日本の学術論文公開サイトは第三ステージへ②

—次世代電子ジャーナルサイトではどのようなことが予定されているか—

J-STAGE(科学技術情報発信・流通総合システム)は、文部科学省傘下の独立行政法人科学技術振興機構(JST)が運営する日本の学術論文・電子ジャーナルの公開サイトです。現在 JST では、2012年4月からの次世代電子ジャーナルサイト「J-STAGE 3」に向けた準備と開発を進めています。その中には「論文本文の掲載がPDFからXML形式を推奨」に変わるなど、学協会様、印刷会社にも影響を与える内容も含まれています。

今回は「次世代電子ジャーナルサイトではどのようなことが予定されているか」についてです。

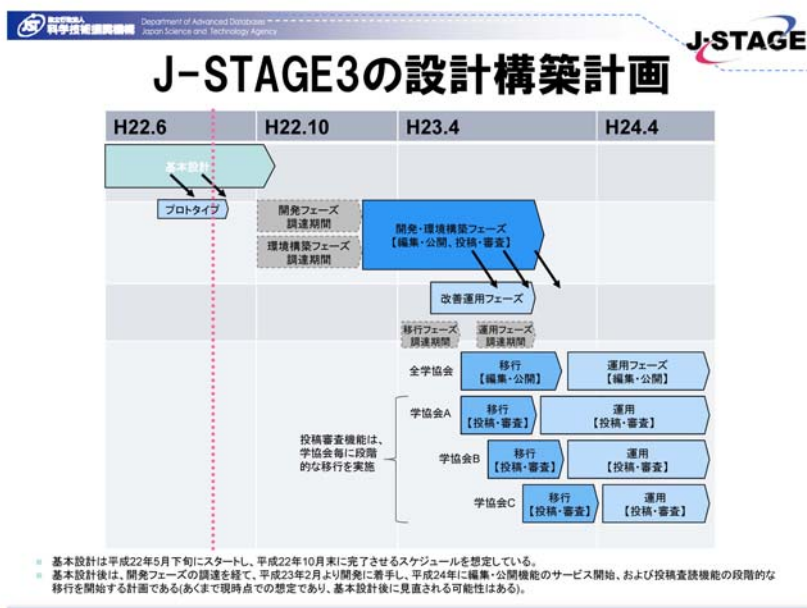
■J-STAGE 3 開発の背景とスケジュール

(1) 現行の電子ジャーナル公開サイト「J-STAGE 2」は2003年から運用し、約7年が経過、海外の電子ジャーナルサイトの多くが最近リニューアルしている中、機能面での一層の充実と全面的なシステムの見直しが必要になっています。

具体的には下記の2点が今回 **J-STAGE 3 開発のコンセプト** となっています。

- 1) 現状の登録データ(BIB形式書誌情報、全文PDF)では他システムとの連携やデータの活用が困難、機能が硬直化し拡張費用がかさむ、操作性が悪いなど **学協会や閲覧者などから出されている改善要望や JST の課題に応えること。**
- 2) 海外の電子ジャーナルサイトの状況や最新の技術動向を踏まえた **世界標準の電子ジャーナルサイトを構築すること。**

(2) J-STAGE 3の開発は、今年で基本設計を完了、2011年(H23年)よりプログラム開発に着手、11月頃には編集・公開部分のテスト版が完成、学協会への説明と実習・練習を開始、**2012年(H24年)3月末で J-STAGE 2 を中止、4月からは J-STAGE 3 に全面移行の予定**で進められています。



■次世代電子ジャーナルサイト:J-STAGE 3 ではどのようなことが予定されているか

J-STAGE 3 では、下記のことが予定されています。

(1) 論文データを XML ベースに移行

本文を世界標準形式の XML ベースに移行することにより、論文の部分抽出や他のシステムとの連携が容易になり、アクセス数の増加も期待されます。

(2) 閲覧者にとって魅力的なサイトに

最も読まれた記事トップ 10 を表示するなど、各ジャーナルのトップ画面を学協会毎にカスタマイズできるようになります。

(3) J-STAGE と Journal@rchive を統合

「Journal@rchive(ジャーナルアーカイブ)」は、国内学術雑誌の国際発信力の強化と日本の知的財産の保存を目的に紙媒体の雑誌を創刊号から電子アーカイブする科学技術振興機構(JST)の事業で、2010年7月現在で117万件の論文が公開されていますが、J-STAGE とは別のプラットフォームになっています。これを統合することにより、検索や閲覧もより便利になります。

(4) 更に充実するリンク連携サイト

新たに構築中のジャパンリンクセンター(仮称)との連携により、より容易にリンク連携先追加が行えるようになります。

(5) 学協会に便利な機能の追加

より細かなアクセス情報の取得や購読者管理など学協会に便利な機能が追加されます。

2012年、次世代電子ジャーナルサイト、「J-STAGE3」始動。



※画面は設計中のイメージです

利用学協会のみなさまに重要なお願い

新システムへのサービス移行作業にみなさまのご協力をお願いいたします

学協会様においてもご判断・作業等が必要になることがあります

システム移行・サービス更新にともない、論文情報の作成形態等、サービス利用方針について学協会様としてのご判断をいただくことがあります。また各種インタフェースが一新されるため、登載作業工程等の更新をお願いする場合がございます。詳細につきましては、開発の進行状況に応じ、JSTより順次最新の情報をご案内してまいります。大変お手数をおかけいたしますが、機能向上のため、ご理解・ご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。また、システム更改に際し、一部サービスの提供制限・停止等を行う場合もございます。

XML形式完全対応。

より高度な公開や他システムとの連携が可能に。

柔軟にカスタマイズ可能な ユーザインタフェース。

独自の画面デザイン、レイアウトが可能に。

J-STAGEとJournal@rchiveを統合。

統一インタフェースでスムーズに検索・閲覧。

魅力的な新機能を続々搭載。

より細かなアクセス情報取得や購読者管理、
学会システムとの連動が容易に。

Japan Link Centerとの連携

更に充実するリンク連携サイト。

※J-STAGEでは、今後ジャーナル/予稿集の発信・流通強化に一層注力してゆきます。またこれに伴い、新システムでは大会演題登録システム・報告書公開など一部サービスの提供を終了いたします。

J-STAGE 3 への移行は1年半後ですが、上記の中で今から対応を検討、準備しておかなければならない課題として「本文 XML ベース化」があります。この課題は論文誌の作成方法にもかかわってきます。

次回は「本文 XML 化に学協会, 印刷会社はどう対応すべきか」を予定しています。

◆ 今回は主に下記サイトなどを参考にまとめさせていただきました。

[「J-STAGE の現状と今後の計画」](#)

(2008 年 12 月 独立行政法人科学技術振興機構 電子ジャーナル課 久保田壮一氏)

[「J-STAGE3 開発状況」](#)

(2010 年 8 月 独立行政法人科学技術振興機構 電子ジャーナル課 久保田壮一氏)

【発行】2010 年 12 月 9 日 三美印刷株式会社経営企画室

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 5-16-7 TEL : 03-3805-7675

URL : <http://www.sanbi.co.jp>